

# 生物多様性ちば ニュースレター

2007年5月23日 No5

## 生物多様性と千葉県の未来選択

(仮称) 生物多様性ちば戦略専門委員  
江戸川大学 教授 吉田正人

生物多様性は、「遺伝子から生物種、生態系に至るすべてのレベルに及ぶ生命の多様性である」(E・ウィルソン)と定義されます。

地球上には昆虫 95 万種、植物 28 万種を初め、150 万から 170 万種ぐらいの生物が識別されています。しかし昆虫学者は少なくとも 3,000 万種以上の昆虫が生息しているだろうと推定しています。私たちは地球上の生物の 10 分の 1 も識別していないのに、自然の速度の 1,000 倍以上の速度で生物を絶滅させていることとなります。

IUCN (国際自然保護連合) は、2004 年に絶滅のおそれのある動植物のレッドデータブックを出版しました。それによると両生類の 32%、3 種に 1 種が絶滅のおそれのある状態となることがわかりました。絶滅危惧の原因は、第 1 位が生息地の破壊、第 2 位が密猟・盗掘、第 3 位が侵略的外来種。カエルなどの両生類の場合は、環境汚染やツボカビ病などが絶滅危惧の原因となっています。

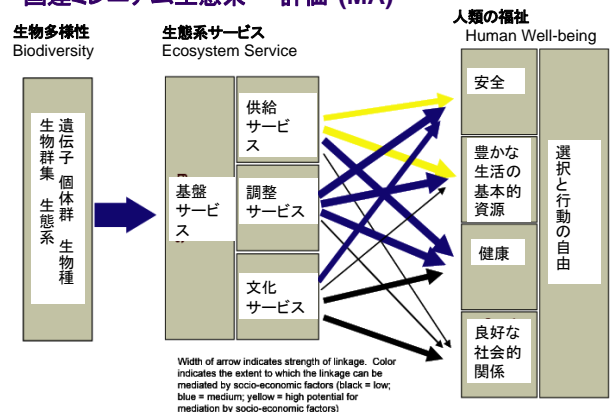
生物種や遺伝子は環境から独立して存在するのではなく、生態系や景観といった、より上位の生物多様性の中で育まれています。たとえば里山は、農耕地を中心に堆肥や薪炭を供給する雑木林、水を供給

するため池や小川など、多様な生態系のモザイクで構成されています。里海は、漁村の地先に広がる浜や干潟を指しますが、アマモ場、アシ原など、やはり多様な生態系がありました。このような多様な生態系のモザイクで構成された景観が、かつての日本の豊かな生物多様性を支えていたわけです。

人間の生活もまた健全な生態系の上に成り立っています。健全な生態系は、森林・土壌・河川などの人間の生存基盤を築き、農作物・燃料などの人間にとって有用な生物資源を生み出し、地域の特性に合わせた豊かな文化を育んできました。これらの「生物多様性のめぐみ」を総称して「生態系サービス」と呼んでいます。

2000 年に、国連事務総長の呼びかけによって、95 カ国から 1,360 人の専門家が参加して、「ミレニアム生態系評価」が行われました。

### 国連ミレニアム生態系 評価 (MA)



矢印の幅は、つながりの強さを示す。矢印の色は、社会・経済要因によって変わりうる程度を示している。(黒：低い；青：中ぐらい；黄：高い)

ミレニアム生態系評価は、生物多様性がもたらす生態系サービスが、安全、健康、生活資源、社会関係などの人類の福祉にどのように貢献し、影響を与えるかに着目しています。

生態系サービスは、食糧・燃料・水など生活に必要な物資を与える「提供サービス」、気候変動・洪水・病気などを抑制する「調整サービス」、レクリエーションや心の豊かさを育む「文化サービス」の3つに大別されます。ミレニアム生態系評価では、さまざまな生態系において、これらの生態系サービスが、過去50年間にどのように変化し、今後どのように変化するかを分析しました。

地球上の生態系は、過去50年から100年の間、さまざまな人為的なインパクトにさらされてきました。

		生息地改変	気候変動	外来種	過剰利用	環境汚染
森林	北方林	↘	↑	↘	→	↑
	温帯林	↘	↑	↑	→	↑
	熱帯林	↘	↑	↑	↘	↑
乾燥地	温帯草原	↘	↑	→	→	↘
	地中海性	↘	↑	↑	→	↑
	熱帯草原	↘	↑	↑	↘	↑
陸水域	沿岸域	↘	↑	↘	↘	↑
	海洋	↑	↑	→	↘	↑
島嶼	山岳地	→	↑	→	→	↑
	極地	↘	↑	→	↘	↑

生態系の改変要因と今後の傾向





過去一世紀間の生態系への影響	生態系への影響現在の傾向
少ない	減少
中ぐらい	連続
高い	増加
非常に高い	急激に増加

熱帯林や温帯草原、陸水域・沿岸域は生息地改変の影響を強く受けています。島嶼生態系は外来種、海洋生態系は過剰利用、陸水・沿岸の生態系は環境汚染の影響を強く受けました。図中の矢印は、21世紀に生態系に対するインパクトがどのように変化

するかを表しています。気候変動、外来種、環境汚染のインパクトは、ほとんどの生態系で強まると予想されています。

ミレニアム生態系評価では、50年後の社会がどのようなものになるか、4つのシナリオをもとに生態系に与えるインパクトを予測しています。50年後の社会がグローバル化するか、地域化するか、生態系のあり方が予防的になるか、後手々々に対処するかによって、「国際協調」、「力による秩序」、「テクノガーデン」、「順応的モザイク」の4つのシナリオが考えられました。

### ミレニアム生態系 評価の 4つのシナリオ

		世界の発展	
		グローバル化	地域化
生態系管理	対処的	 国際協調	 力による秩序
	予防的	 テクノガーデン	 順応的モザイク

現在の社会は環境問題に後手々々に対応しているので、国際協調によって南北格差をなくすか、力による秩序で貧富の差が広がるかの2つしかありません。しかし、環境問題に対して予防的に対処することができるようになれば、技術を共有することで格差をなくす「テクノガーデン」、流域レベルの生態系管理による持続可能な社会を目指す「順応的モザイク」などのシナリオが考えられます。「テクノガーデン」は「ドラえもん型未来」、「順応的モザイク」は映画「となりのトトロ」に出てくるような「サツキとメイ型未来」と言い換えることができるでしょう。このシナリオ分析では、「サツキとメイ型未来」が、供給サービス、調整サービス、文化サービスのどれ

をとっても 50 年後には向上すると予測されています。多くの途上国は、日本に対してハイブリッドカーや燃料電池自動車などの環境技術を提供してくれる「ドラえもん型未来」の旗頭となることを期待しているようです。しかし、CO2 排出削減のためバイオエタノールを増産しようとする、今度はトウモロコシやサトウキビを材料とする食品が値上がりするなどというグローバル経済のしくみを目にするにつけ、私たちはもっと足元を大事にしなければならないと感じます。

そこで私はあえて「日本は『サツキとメイ型未来』を選択すべきだ」と主張したいと思います。かつて日本は、里山・里海における自然と共生した循環型社会の経験を有していました。しかし日本の里山・里海は農村漁村の構造変化・高齢化によって存続が危ぶまれています。江戸時代のような自給自足の世界に戻すことはできませんが、たとえば新鮮な地元の産品を販売する「道の駅」を増やしたり、食品の包装紙に産地から消費地間で運搬するのに排出された CO2 をフードマイレージとして表示させたりして、「千産千消」を進める工夫をすることで、少しでも地域が自立した循環型社会に近づけ、里山・里海を持続可能な共生社会のモデルとして世界に紹介できるようにすべきでしょう。豊かな海と里山を有した千葉県だからこそ、それは夢ではないと思います。

(終)



富里市の谷津田。初夏にはゲンジボタルが舞う。

東関東自動車道のすぐそばにこのような環境が点在する。

## 第一回ちば生物多様性県民会議 が開催されました

2007 年 5 月 9 日 18 時 30 分から 20 時 50 分、千葉県教育会館新館 5 階会議室にて、ちば生物多様性県民会議実行委員会(代表:夷隅郡自然を守る会 手塚幸夫)が主催する第一回ちば生物多様性県民会議が行われ 229 名の参加者がありました。

生物多様性の保全・再生に係る施策の推進に当たっては、行政のみならず県民一人ひとりが「シンク・グロバリー、アクト・ローカリー(地球規模で考え、身の回りから行動する)」の観点から、行動を起こすことが重要であり、この会議では(仮称)生物多様性ちば県戦略の策定に向けて、県民から意見提案を行うことを目的としています。



今回の会議では、(1)県民会議立ち上げの報告(栗原裕治さん:まちづくりサポートセンター)、(2)ちば生物多様性県民会議実行委員会代表あいさつ(手塚幸夫さん)、に続き基調講演として堂本暁子知事から『ちば生物多様性県民会議に期待するもの』というタイトルで講演をしていただきました。(3)現場からの報告として 海からの報告(中村松洋さん:いすみ市)、河川・干潟からの報告(御簾納照雄さん:小櫃川・盤洲を守る連絡会)、農地からの報告(高橋修さん:印旛沼土地改良区、水土里ネット)(仲野隆三さん:富里市農協)、森林からの報

告（金親博榮さん：里山センター）、都市緑地からの報告（齊藤久芳さん：千葉市役所）

（４）これから行われるグループ会議について説明がありそれぞれの代表者から趣旨を説明していただきました。今回の会議で説明があったグループ会議は、【里山と生物多様性】、【里海と漁業と生物多様性】、【農林業と生物多様性】、【まちづくりと生物多様性】、【情報研究センターと生物多様性】、【教育と生物多様性】、【野生動物と生物多様性】、【北総域の生物多様性保全】、【谷津田の生物多様性保全】、【市民参加の生物多様性保全】、【遺伝子組み換え生物と生物多様性】、【山・川・海の生物多様性保全】。（今回の会議の後もグループ会議のエントリー数は増加していません）（５）会場からの意見を４件、（６）最後に県からコメント。

#### グループ会議情報

- \* 5月25日 18:00-20:00 【谷津田の生物多様性保全】  
伝統的農業がになう谷津田の生物多様性（県庁1階多目的ホール）ちば環境情報センター・ちば谷津田フォーラム
- \* 6月21日 10:00-12:00 【化学物質と生物多様性】都  
市にある緑（街路樹を含む）と生物と人の暮らし方（東葛  
飾合同庁舎6階第1会議室）
- \* 6月29日 18:00- 【教育と生物多様性】（仮）生  
物・生命・いのちの教育（木更津市中央公民館3階会議室）
- \* 6月30日 【情報・研究センターと生物多様性】生物  
多様性センターの役割としくみ（千葉県立中央博物館）NPO  
法人千葉まちづくりサポートセンター
- \* 7月1日 10:30-16:00 【里山と生物多様性】生物の多  
様性がささえる里山の生業（千葉県立中央博物館）

今後、千葉県の生物多様性に関するさまざまなテーマのグループ会議が各地で行われる予定です。詳しくは千葉県庁自然保護課HPをご覧ください。

### G20 グレンイーグルス閣僚級 対話が2008年3月千葉県で 開催されます

この会議は、2008年7月北海道洞爺湖でのG8日本サミット開催に向けてG8国をはじめ中国、インドなどの二酸化炭素排出国20ヶ国の閣僚及び世界銀行、国際エネルギー機関（IEA）の責任者等が、気候変動・クリーンエネルギーや持続可能な開発について話し合う国際会議です。

このような重要な会議が、いよいよ京都議定書に基づく温室効果ガスの削減義務が来年から始まるこの時期に千葉県で開催されるのは、意義深いことです。この会議では、議定書の未批准国（アメリカ合衆国、オーストラリア）や新興経済諸国（中国、韓国、インド、ブラジルなど）も一堂に会し、意見の交換を行います。地球環境保全のためにも実り多い論議を望みたいと思います。

このニュースレターに関する質問・要望・意見等ございましたら、[kuranishi@chiba-muse.or.jp](mailto:kuranishi@chiba-muse.or.jp) まで。

#### 生物多様性ちば ニュースレター No 5

発行日：2007年5月23日

発行：千葉県環境生活部自然保護課・

千葉県立中央博物館

編集担当：倉西良一・熊谷宏尚

千葉県環境生活部自然保護課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

TEL:043-223-2957 FAX 043-225-1630

千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

TEL:043-265-3111 FAX 043-266-2481